

平成23年度九州大学大学院法学府  
修士課程入学試験問題（春季）

トランスナショナル法

次の中から、2問を選択して解答しなさい。

- 問1. WTOのもとでの加盟国間の紛争解決の仕組みは、WTO設立前のGATT下における仕組みよりは格段に進歩したと言われている。両者の違い、新制度がどの点で進歩したと言われるのかについて説明せよ。
- 問2. 国際企業合弁は国際投資における一つのツールであるが、合弁を組んで事業を進めることと同一事業を単独で進めることとを比較してそれぞれのメリット・デメリットについて述べよ。また、新たな国際投資を行うに際して企業買収の手法による場合と、初めから自分で事業を立ち上げる場合とのメリット・デメリットについて述べよ。
- 問3. 国際動産売買に関する国連条約＝通称ウィーン売買条約（United Nations Conventions on Contract for the International Sale of Goods=CISG）に関して、その加盟国の企業と非加盟国の企業との売買取引にはCISGが適用されるかどうかについて説明せよ。
- 問4. 米国独占禁止法の主要3法と言われる各法律について説明せよ。
- 問5. 米国において原告が被告の製造物責任を追及する場合に利用する法理論について説明せよ。
- 問6. 特許実施許諾契約（特許ライセンス契約）においてはどんなことを定めておけばよいか、通常の特許実施許諾契約に含まれる内容を簡単に説明せよ。